

にしおかのおぶき
○西岡 伸紀, 鬼頭英明 (兵庫教育大学大学院)

中藪伸二 (びわこ成蹊スポーツ大学)

【背景】

本研究では、大学生の飲酒に関する経験、意識、それらの関連性を明らかにし、問題飲酒の防止対策を検討することを目的とする。

【方法】

1. 調査対象

関西の3大学の大学生1~4年生503人を対象に、2011年12月~2012年2月に調査を行い、1, 2年生417人(男子215人, 女子202人)を分析した。調査は授業時行われ、学生は調査票に記入後、封筒に密封し提出した。

2. 調査内容

調査項目は、大学生の飲酒に関する先行研究、及び大学院生を対象とした飲酒に関するグループインタビューを踏まえて作成した。具体的には、学年、年齢、性別、部活等への所属と種類、生涯及び年間の飲酒、イッキ飲みの経験と機会、イッキ飲みやその対策に関する意識及び対処の自信(15項目)、重大な意思決定に関わる能力(20項目)、社会的スキルKISS18(18項目)とした。なお、意思決定能力については、Millerらの開発したDecision-Making Competency Inventoryを用い、KISS18とともに、得点を中央値により高群と低群に二分し、関連を調べた。

【結果】

1. 飲酒に関わる状況

生涯の飲酒経験率は、男子91%、女子90%であった。イッキ飲み経験率は、男子49%、女子23%であった(男女間 $p<0.05$)。イッキ飲みの機会については、部活動での新歓や通常の飲み会、友だちとの飲み会が多かった。

2. イッキ飲みに関する意識

イッキ飲みについては、「その場の雰囲気盛り上げる」に6割が賛成したが、一方、

「危険である」には9割程度が、「させられると苦しい」には6割程度が賛成した。対策については、賛成が半数を超えたのは、「始まったら周囲が止めるべき」「大学は厳しく禁止すべき」「部活動等では上級生が禁止を徹底」「部活動等では禁止のルールを作るべき」であった。

3. イッキ飲み関連要因

男女とも、イッキ飲み経験と年間飲酒には有意な関連が認められ、イッキ飲み経験者は未経験者に比べ飲酒頻度が高かった。部活動等への所属については、女子では有意な関連が見られ、所属する場合イッキ飲みの経験率がより高く、非所属の5倍程度を示した。

イッキ飲み経験と意識(15項目)の関連では、男子4項目、女子13項目において有意な関連が認められた。すなわち、イッキ飲み経験者は、イッキ飲み等に対してより肯定的であり、誘いに対して断りにくく、同級生のイッキ飲みなどに同調しやすかった。

イッキ飲み経験や意識と、意思決定能力や社会的スキルとの関連については、男子では、意識3項目において社会的スキルが高い方がイッキ飲みに肯定的であった($p<0.05$)。女子では、意思決定能力が低く、社会的スキルが高いほど経験率が高く($p<0.05$)、各8個及び3個の意識項目で肯定的であった($p<0.05$)。

【考察】

イッキ飲み経験者は、部活動等に所属し、イッキ飲み肯定的で、勧めに弱く、対策に消極的であり、意思決定能力が低く、社会的スキルが高い傾向にあった。対策としては、個人の能力等の向上に加え、大学、部活動、上級生などに関わる社会的対策も必要と考えられた。